

家庭ごみ指定袋に関する市民アンケート調査結果

1 調査目的

アンケートは、家庭ごみ指定袋の使用状況及び袋のサイズ等に関する需要を把握し、今後の家庭ごみ指定袋制度の検証及び更なる減量化施策に活かすことを目的に実施しました。

2 調査方法

(1)調査対象

無作為に抽出した市内4,000世帯(市内全世帯の約4分の1)

(2)実施時期

①配布日:令和6年8月9日(金)

②締切日:令和6年9月17日(火)

(集計は9月30日時点で実施)

(3)実施方法

アンケート調査票を郵送 → 返送またはweb回答で回収

その他調査対象者以外からの直接回答(窓口)も受付

3 回収状況

アンケート発送数 ①		4,000通
宛先不明による返却 ②		23通
有効発送数 ③=①-②		3,977通
有効回答数 ④		2,203通
内 訳	郵送及び窓口回答	(1,844)
	web回答	(359)
回収率 ④/③		55.4%

※有効回答数④については、アンケート送付者以外からの窓口回答等も含む。

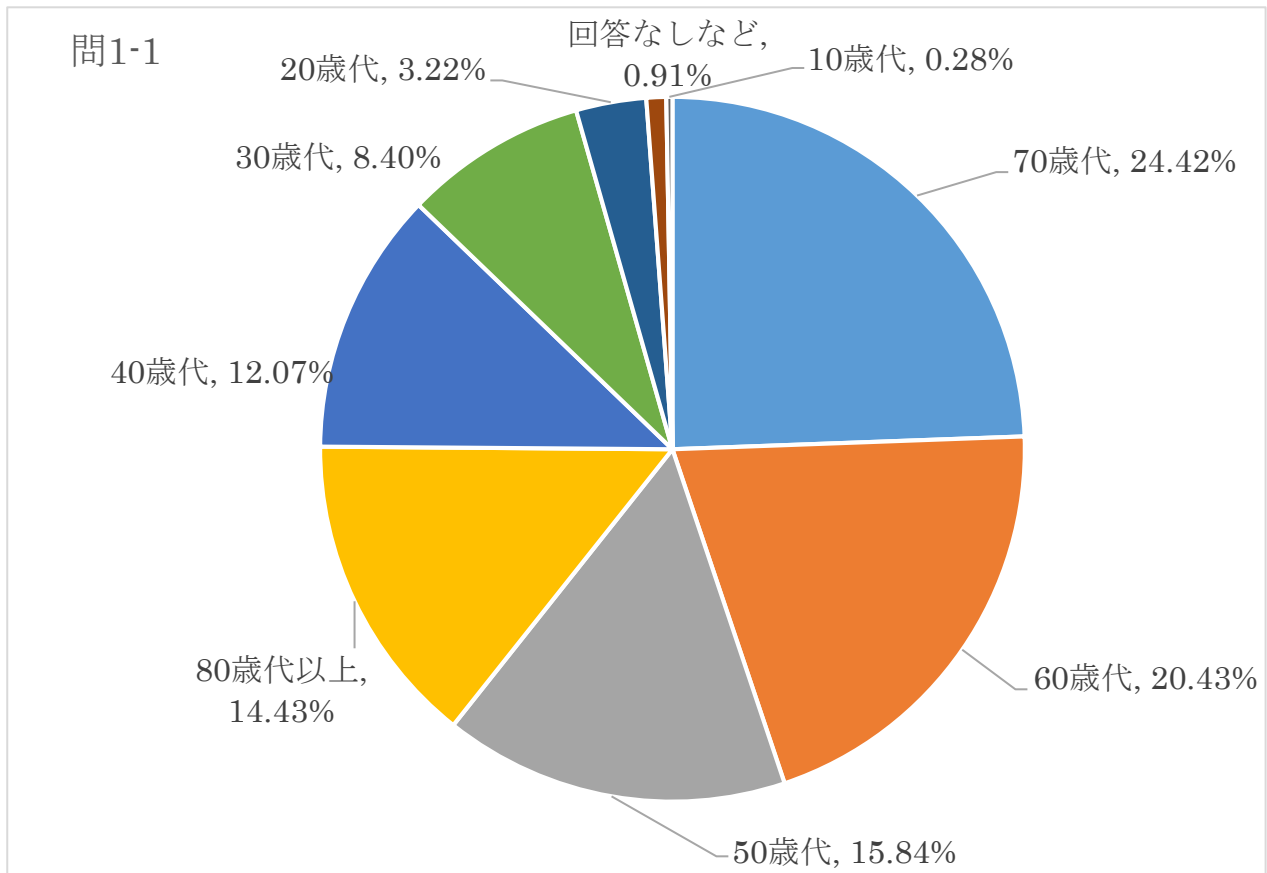
4 調査結果概要

普段一番よく使用している袋の種類は、「大」が74.2%と一番多く、続いて「小」が17.5%、「特小」が6%という結果になっています。サイズについては、全ての種類において70%超から80%超の方が「現在のサイズで問題ない」と回答しています。また、サイズの追加に関しては、全体の60%近くの方から「現在の3つのサイズで特に問題はない」との回答をいただいています。結びしろの長さについては、「現在のままでよい」との回答が60%程度ある一方で、60歳以上の高齢者を中心に「長い方がよい」とする回答も40%弱いただいています。結びしろの形状については、80.4%の方から「現在の形状で特に問題ない」との回答がありました。

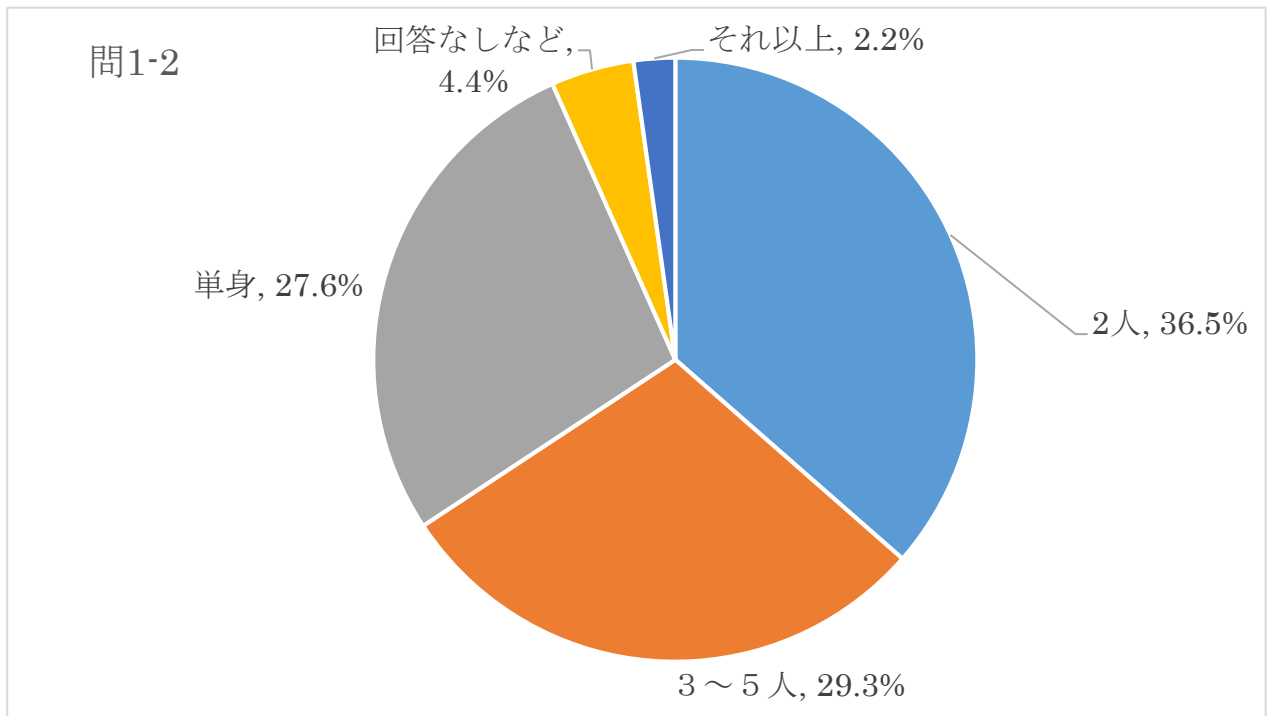
5 調査結果詳細

問1)回答者の方についてお聞かせください。

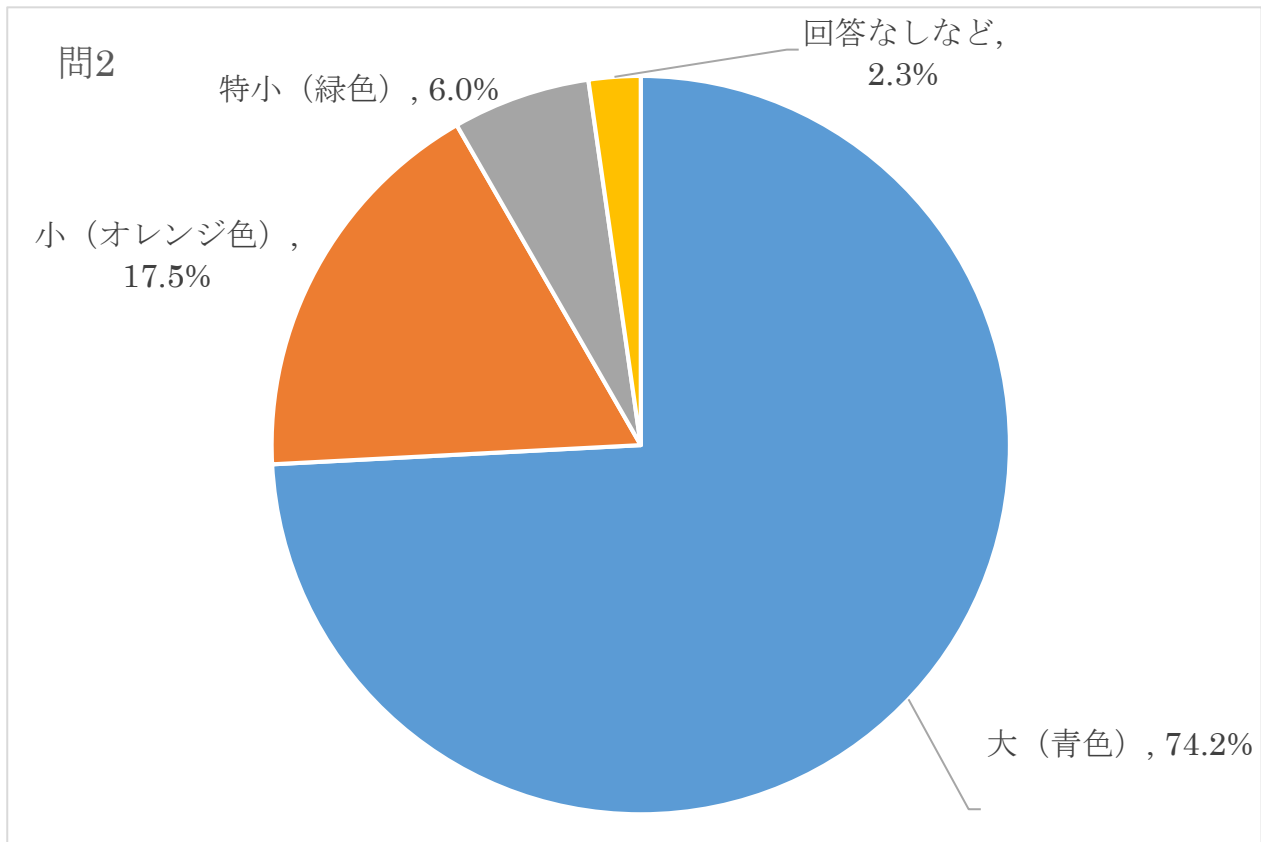
■年齢



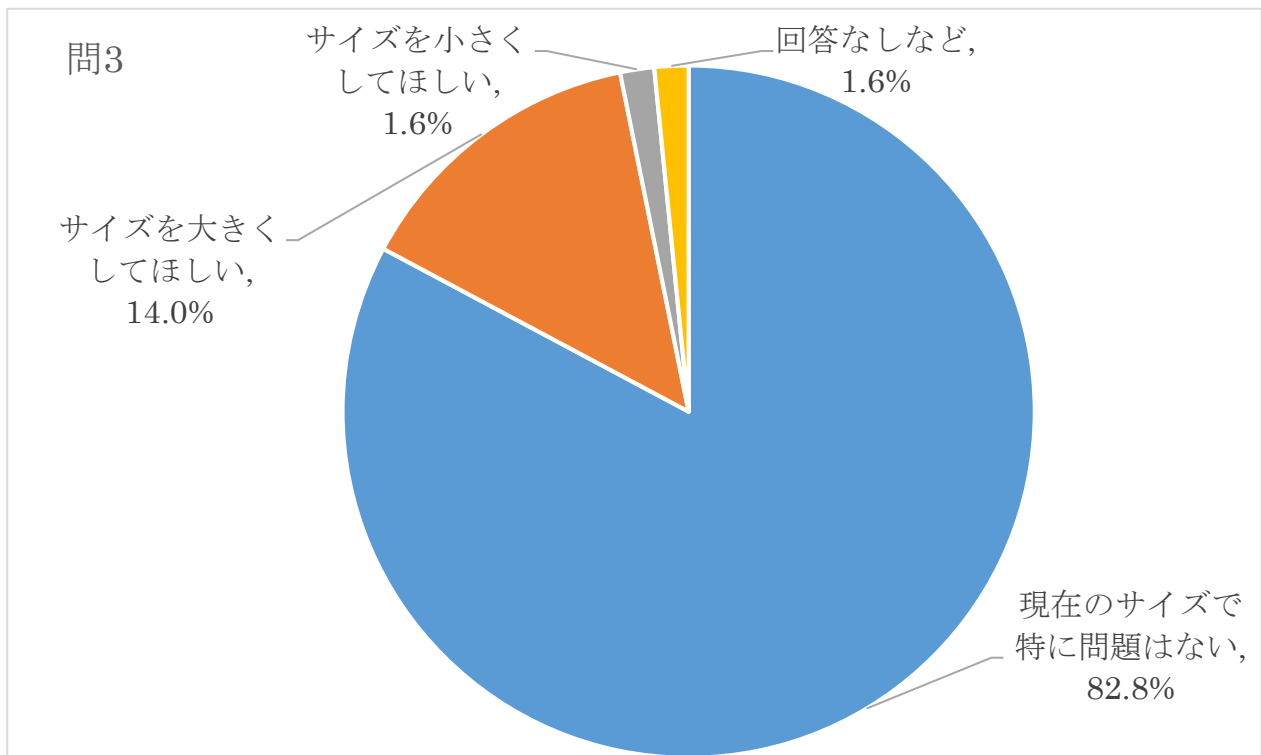
■世帯構成



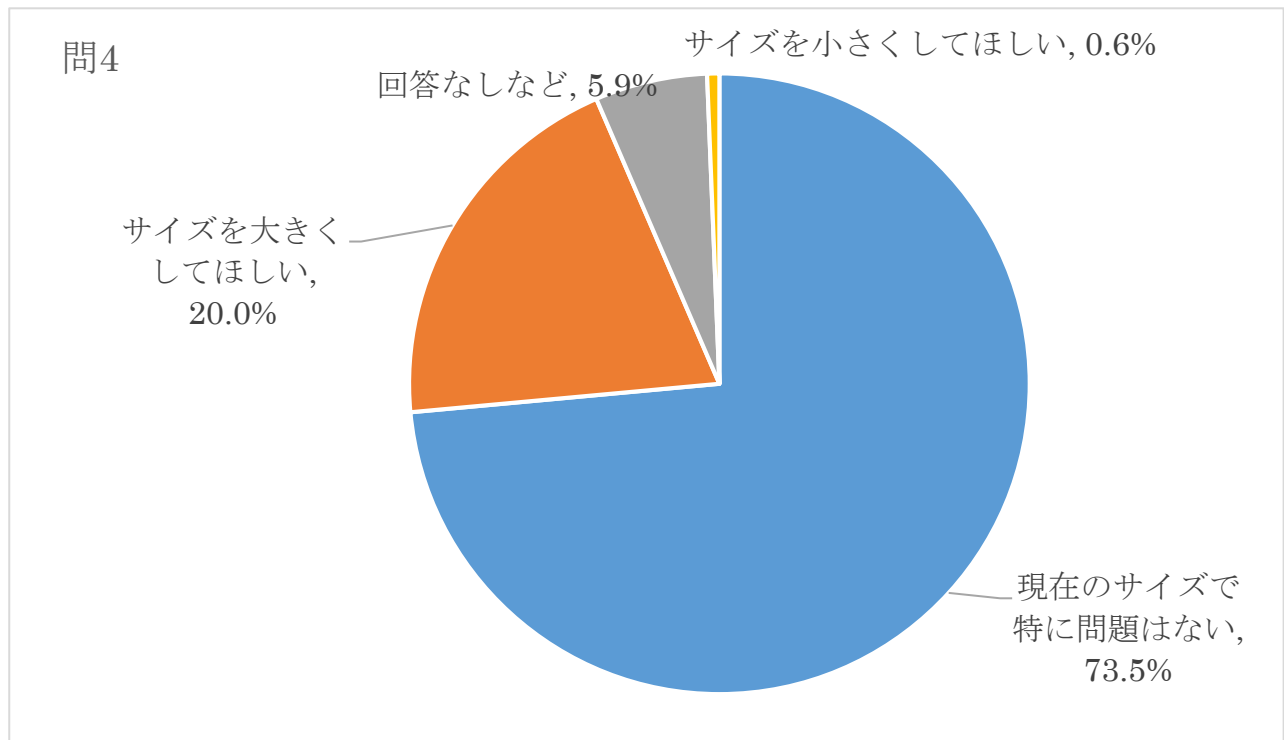
問2)現在、家庭ごみ指定袋の3種類のうち、1番よく使うものはどれですか。



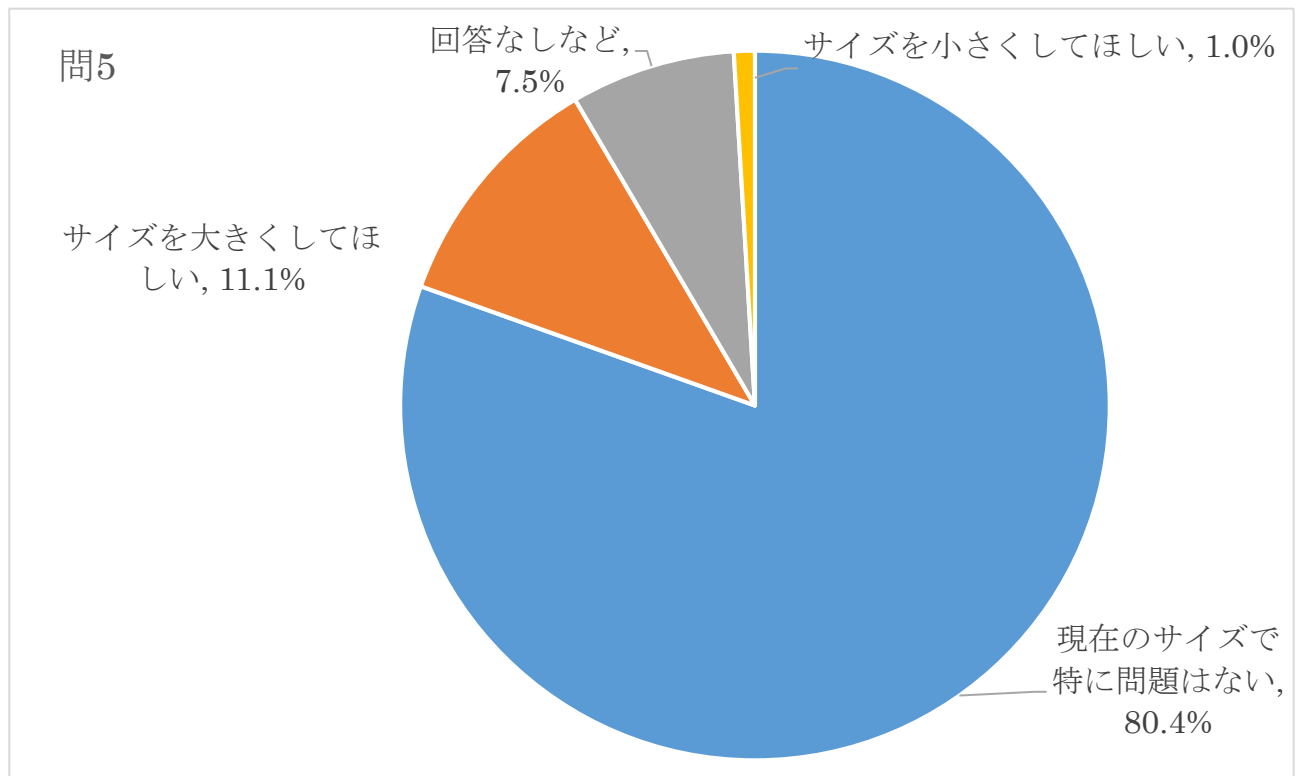
問3)家庭ごみ指定袋「大」のサイズに関して要望はありますか。



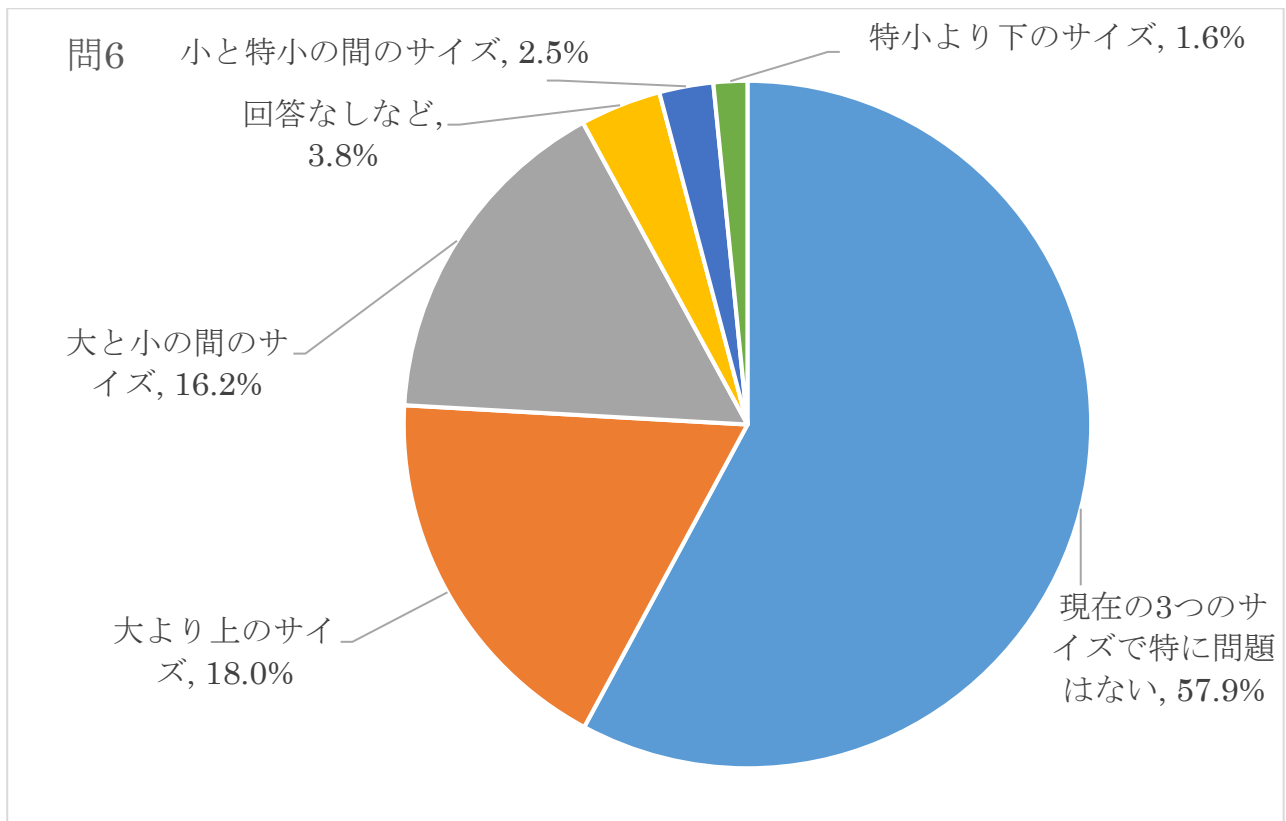
問4)家庭ごみ指定袋「小」のサイズに関して要望はありますか。



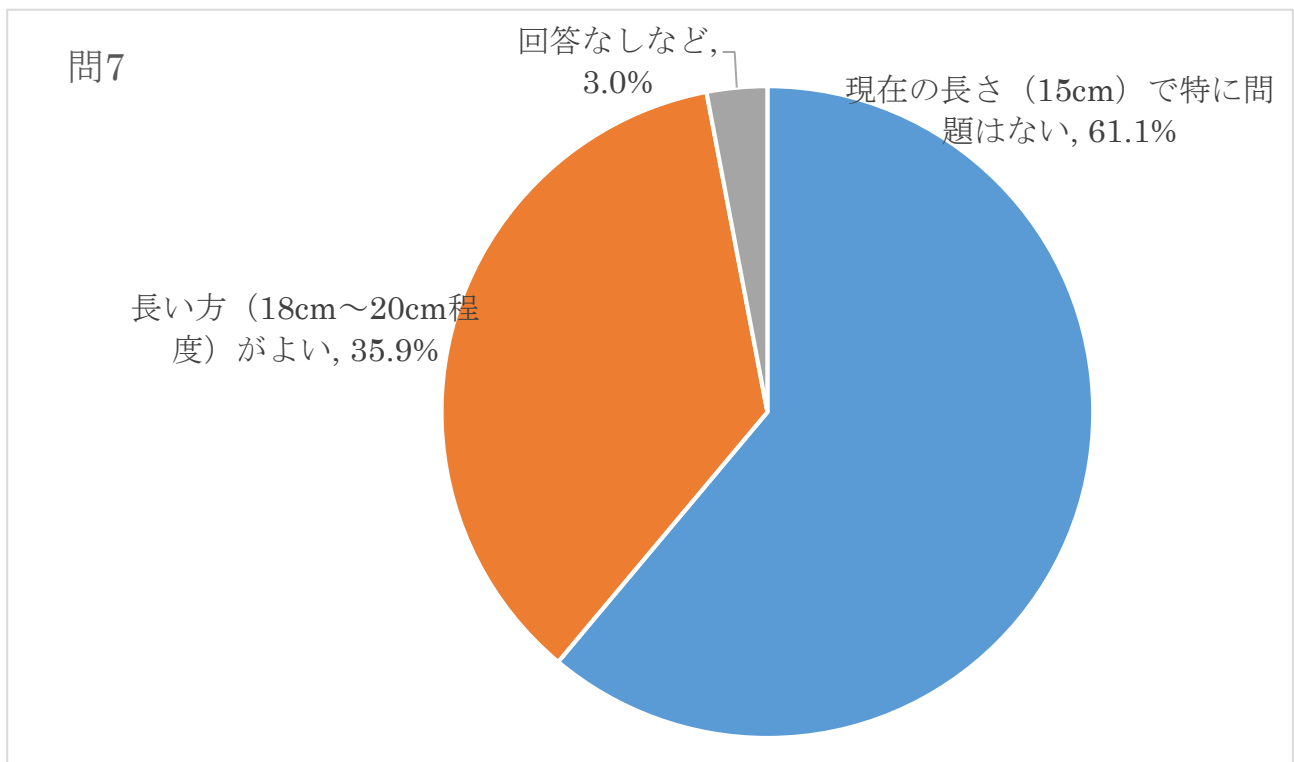
問5)家庭ごみ指定袋「特小」のサイズに関して要望はありますか。



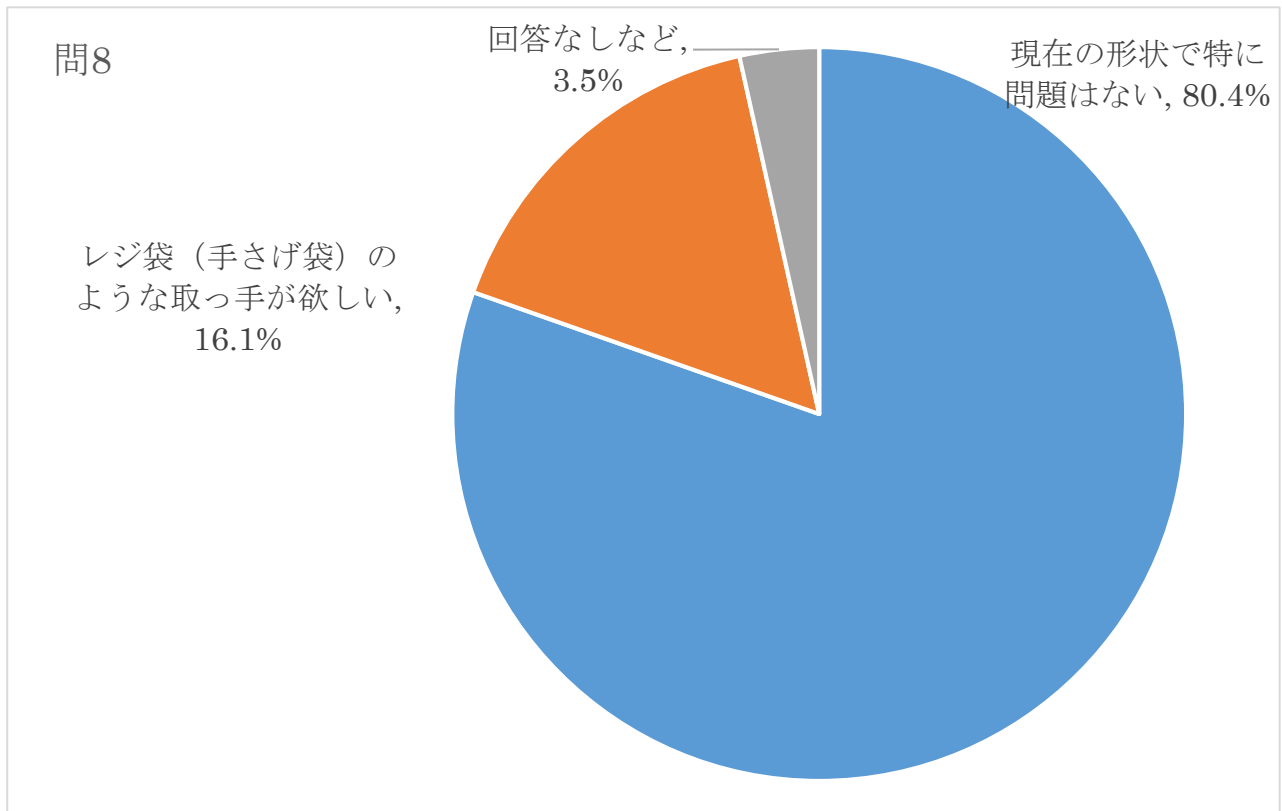
問6)家庭ごみ指定袋を1サイズ追加する場合、どのサイズが必要かご回答ください。



問7)家庭ごみ指定袋の結びしろ(口を結ぶ部分)の長さについて、あてはまるものをご回答ください。



問8)家庭ごみ指定袋の結びしろの形状について、あてはまるものをご回答ください。



問9)その他、四万十市の家庭ごみ指定袋に関するご意見等がありましたらご記入ください。(自由記述)
400件に近い多くのご意見をいただきましたので、主なものについて以下のとおり、回答します。

①家庭ごみ指定袋の価格について 「家庭ごみ指定袋の価格が高いのではないか」	家庭ごみ指定袋の価格については、幡多クリーンセンターで処分する四万十市のごみ処理経費を元に、全国的な例によりごみ処理経費の20%程度となるよう設定しています。 現在、ごみの排出量は減少傾向にあるものの、ごみ処理経費は物価高や燃料費高騰等の影響による上昇傾向にあり、ごみ処理経費に対する家庭ゴミ指定袋の販売額の割合は20%に満たない状況が続いています。 こういった現状により、家庭ごみ指定袋の価格については、当面の間、改定すべきではないと考えています。
---	--

②家庭ごみ指定袋の強度について 「破れやすくはないか」 「もっと丈夫な袋にしてほしい」	家庭ごみ指定袋の厚さは現在0.03ミリ以上としています。厚さ(引張強さを含む)については、JIS規格での検査を受け基準を満たしているものを納品させています。旧中村市で使用されていた指定袋の厚さは0.05ミリであったようですが、強度を維持しながらコストの削減に取り組み、平成16年度から17年度にかけて0.04ミリ、平成18年度に0.035ミリ、平成22年度に0.03ミリと徐々に薄くしていった経過があります。材質については、平成22年度に「低密度ポリエチレンフィルム」から「低密度+高密度ポリエチレンフィルム」に変更しており、高知県内の他市町村の状況も確認しつつ、審議と検討を重ねてきた結果、現在の仕様を定めています。また、幡多郡内の全市町村についても、現在は0.03ミリ前後の厚さの袋を使用していることなどからご理解のほどよろしくお願いします。
③袋の色等について 「袋の色を変えてはどうか」 「カラス対策はできないか」	家庭ごみ指定袋の色については、回収する際にごみ収集業者が危険物でないと中身を判別できるという点と、最低限のプライバシー面の配慮を含めて半透明の乳白色としています。 色の変更に関して、主にカラス対策として黄色にしてみようかという意見もいただきましたが、カラスは紫外線を認識しごみ袋の中身を識別しているようで、袋の色はあまり関係がないという報告もあり、ごみ袋が黄色くなるのは、ごみ袋の材質に紫外線をカットする顔料を練りこんだ際に発色するものともお聞きしています。 他市町村では、紫外線をカットする顔料を練りこんだ黄色のフィルムを使用したところ、カラスが中身を判断できなくなりカラス除けに効果が上がったという例もあったようですが、本市においては、防護ネット等の使用による対策をお願いしているところです。